

かつて勤務していた中学校で聞いた校長先生の話を、ふと思い出しました。ある日、先生は全校朝会で、テストが近づいてきた生徒たちに「篤農、中農、愚農」について話されました。「篤農は草が生える前に草を取る。中農は草が生えてきたら草を取る。愚農は草が生えてきても草を取らない。さあ、君たちは、どの農になりたいか」と問いかけました。

草むしりに精を出す

た。しかし、最近は加齢とともに体力が衰え、わが家の畑はあちこちに草が生えて、日増しに勢力を伸ばしています。特に今の時期は大変です。そのため、つい除草剤に頼ることが多くなり、とても篤農とは言えなくなってきました。それでも「愚農にはならぬように」と、暑さを避けて草をむしる毎日です。

もちろん、この話の要点は、生徒

たちが日々の学習姿勢について考えることです。「篤農」は毎日こつこつと勉強してテストに臨む、「中農」はテストが近づいたら勉強を始める、「愚農」はテストが近づいても準備をしない、という意味合いであつたのです。

私は以前、篤農のようになろうと頑張つて草むしりに精を出しまし

点差 □
こうさてん

故・長嶋茂雄さんは練習の姿を決して他人には見せなかつたと聞きました。見えないところで努力を重ねた証しがミスタージャイアンツとなつたこのことです。私も、せめて中農を目指してこつこつと草を取る努力をして、自分で満足できる畑にしたいと思います。きっと評価は畑がしてくれるのではないかと思います。

(安曇野市穂高、荻原義重、81歳)